

患者癒やす階段アート



階段のガラス面に絵を描く生徒ら

ガラス面に絵を描いた
階段で記念写真に納ま
る生徒ら
—真生会富山病院

小杉高生描く

病院が2025年7月に開いた「真生会オープンホスピタルWe」で、美術部とイラスト同好会の生徒が初めて階段アートを制作し、行事後も「残してほしい」と好評だったことから26年6月まで保存していた。1

年ぶりに絵をリニューアルすることにし、今回も生徒に制作を依頼した。生徒は「折り紙の世界」をテーマに事前に用意した下絵を基に、折り紙で作ったように見える花や雨傘、山、ハチ、ロケット、小鳥、

地球などを色とりどりのキットパスで描き、約2時間半かけて仕上げた。

油石愛琉さん（2年）は「折り紙は病気で外に出られない人も楽しめるので、作ってみたいと思ってもらえたらいい」とし、「カラフルで楽しい感じに仕上がって良かった」と笑顔を見せた。

階段アートを担当する同病院の公認心理師、田邊裕さんは「患者や職員にすごく喜ばれると思う」と話した。

真生会富山病院 花や動物多彩

小杉高校（射水市三ヶ）の美術部とイラスト同好会の生徒21人は9日、真生会富山病院（同市下荻の1階エントランスホール）と2階をつなぐ階段のガラス面に、水拭き

で消せるクレヨン状の絵の具「キットパス」を使って花や動物、ロケットなど多彩な絵を描いた。大勢の患者や職員が行き交う空間を癒やしのアートで彩った。（二川孝文）